

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 15年8月

～7-9月期は2四半期連続の減産が確実に

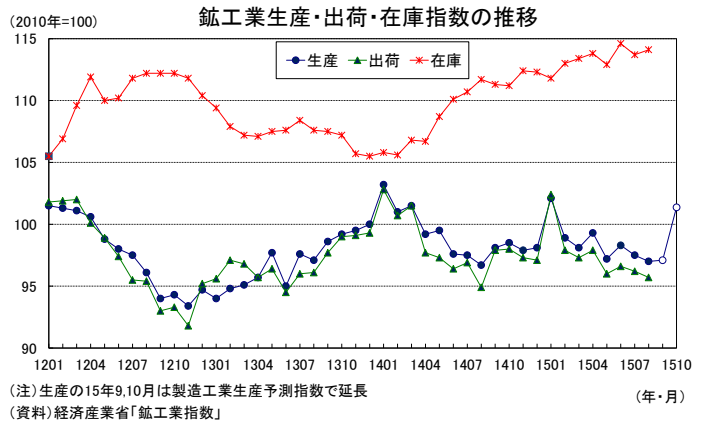
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 8月の生産は予想外のマイナス

経済産業省が9月30日に公表した鉱工業指数によると、15年8月の鉱工業生産指数は前月比▲0.5%と2ヵ月連続で低下し、先月時点の予測指数の伸び（前月比2.8%）、事前の市場予想（QUICK集計：前月比1.0%、当社予想も同1.0%）をともに大きく下回る結果となった。出荷指数は前月比▲0.5%と2ヵ月連続の低下、在庫指数は前月比0.4%と2ヵ月ぶりに上昇した。

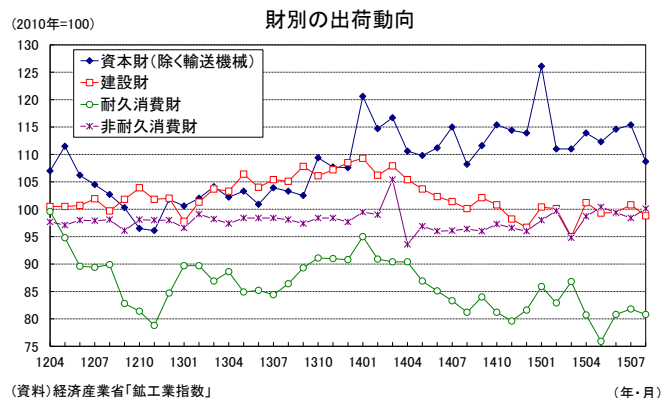
8月の生産を業種別に見ると、新興国経済減速の影響からはん用・生産用・業務用機械が前月比▲3.2%と大きく落ち込んだほか、国内販売が低調に推移している輸送機械が前月比▲0.7%の減少となるなど、速報段階で公表される15業種中10業種が前月比で低下、5業種が上昇した。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は15年4-6月期の前期比▲2.1%の後、7月が前月比0.7%、8月が同▲5.8%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は15年4-6月期の前期比1.5%の後、7月が前月比1.4%、8月が同▲2.0%となった。7,8月の平均を4-6月期と比較すると、資本財（除く輸送機械）は▲1.4%、建設財は▲0.2%低い水準にある。

GDP統計の設備投資は15年4-6月期に前期比▲0.9%と3四半期ぶりの減少となった。日銀短観、日本政策投資銀行などの設備投資計画は強めで、先行指標の機械受注（船舶・電力を除く）も堅調に推移しているが、本日の結果から判断すると7-9月期の設備投資が増加に転じるかどうかは微妙な情勢となってきた。

一方、消費財出荷指数は15年4-6月期の前

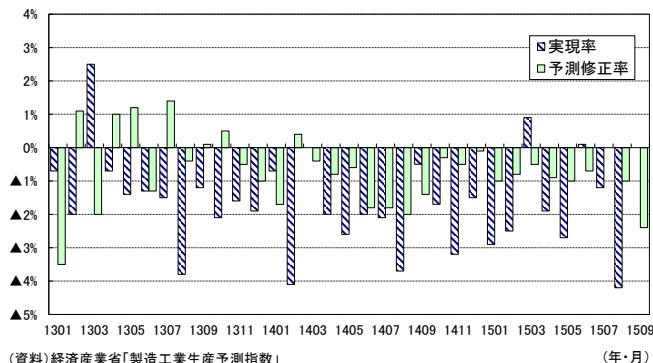


期比▲2.5%の後、7月が前月比0.3%、8月が同0.8%となり、7、8月の平均は4-6月期よりも1.4%高い水準となっている。現時点では15年4-6月期に前期比▲0.7%と4四半期ぶりの減少となったGDP統計の民間消費は7-9月期には増加に転じると予想している。ただし、所得の伸び悩みが続いていることから持ち直しのペースは緩やかにとどまり、4-6月期の落ち込みを取り戻すまでには至らないだろう。

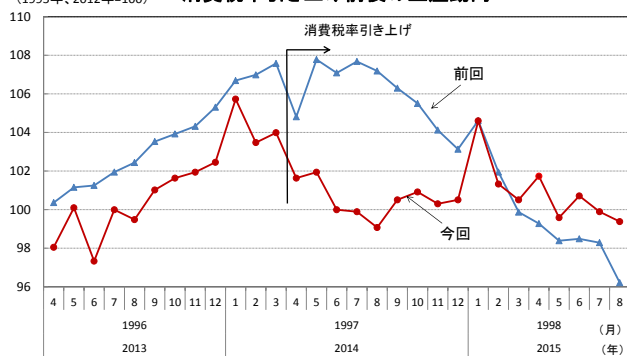
2. 鉱工業生産は下降局面に

製造工業生産予測指数は、15年9月が前月比0.1%、10月が同4.4%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（8月）、予測修正率（9月）はそれぞれ▲4.2%、▲2.4%となり、先月時点の生産計画が大幅に下方修正され、8月については予測調査の対象となっている11業種全てが下方修正された。9月の予測指数はかろうじて前月比でプラスとなっているが、生産計画が下方修正されていることを踏まえれば、実際の生産はマイナスとなる可能性が高く、10月の増産についても不確実性が高い。

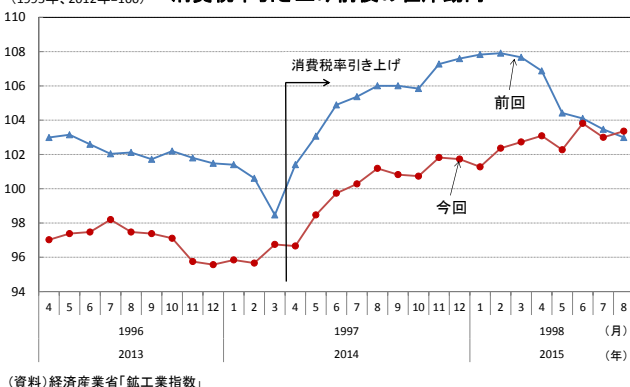
最近の実現率、予測修正率の推移



(1995年、2012年=100) 消費税率引き上げ前後の生産動向



(1995年、2012年=100) 消費税率引き上げ前後の在庫動向



15年8月の生産指数を9月の予測指数で先延ばしすると、15年7-9月期は前期比▲1.1%となり、4-6月期の同▲1.4%に続き2四半期連続の減産となることが確実となった。また、7月に前月比▲0.8%と比較的大きめの低下となった在庫指数は前月比0.4%と再び上昇した。個人消費を中心とした国内需要の低迷、中国、新興国などの海外経済の減速を背景とした輸出の弱含みから在庫の積み上がりに歯止めがかからない。

鉱工業生産は消費税率引き上げの影響が和らぐ中、14年夏場以降持ち直していたが、内外需の弱さを背景とした在庫調整の遅れから15年初め頃をピークに下降局面に入ったと判断される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。